

令和7年度事前評価結果(重点研究)

| 研究 課題 名 (期 間) | 代表試験場 | 研究評価委員会による評価結果 | | | | | | 総合評価 | | |
|---|--|------------------|-----------------------------|-------------------|--------------|---|--------|--|--------|---|
| | | 緊 急 性 ・ | 研究計画の適切性 | | | 成 果 可 能 性 の 活 用 の | 評 価 | 意 見 | 評 価 | |
| | 共同研究機関 (外部) | | 研究目標 および研 究項目の 妥当性 | 計画の科 学的妥当 性 | 実施体制 の妥当性 | | | | | |
| 海洋環境変動に伴うホタテガイ採苗数変動の理解と採苗技術改良に関する研究(R8-R10) | 中央水産試験場 栽培水産試験場、函館水産試験場、稚内水産試験場、網走水産試験場 | 3.7 | 3.1 | 3.0 | 3.4 | 3.4 | B | 構築する情報基盤の具体的な整備・活用・維持方法を計画に盛り込むとともに、水温や波浪等、採苗不良に影響を及ぼす重要因子や稚貝の付着・保持に適した採苗器の構造について詳細に検討すること。成果は産業現場へ順次普及し、ホタテガイ種苗の安定確保に資するよう努めること。 | B | 本課題は、足もとのホタテガイ採苗不振への対処に加え、中長期的にみたホタテガイ生産安定化のためにも不可欠な取り組みである。本道におけるホタテ漁業の重要性に鑑みれば、早期に着手する必要があり、研究評価委員会の意見も踏まえつつ、令和8年度から実施する。 |
| 原料鮮度管理の導入による次世代型冷凍すり身製造のための指針策定(R8-R10) | 釧路水産試験場 中央水産試験場、網走水産試験場 | 3.1 | 2.9 | 2.9 | 3.1 | 2.9 | B | 原料確保が不安定となった現状を踏まえ、原料特性や鮮度と冷凍すり身の品質との関係を総合的に評価できる実験計画を精査するとともに、それを踏まえ加工技術の改良へ繋げること。漁獲から輸送・加工場まで一連の鮮度管理(温度管理)に係る投資やコストを認識し、普及する成果が上流(漁業者)から中流(加工業者)、下流(消費者)まで一貫した恩恵となる課題設計を考えること。 | B | 本課題は、原料魚の趨勢的な減少と陸海の環境変化の下で冷凍すり身の品質向上を図るため、その製造過程に原料鮮度管理を導入する取り組みであり、早期に着手する必要性が高い。研究評価委員会の意見も踏まえつつ、令和8年度から実施する。 |
| 酒類貯蔵樽の樹種バリエーション拡大のための技術開発(R8-R10) | 林産試験場 食品加工研究センター 株式会社北海道バレル、有明産業株式会社 | 2.8 | 2.8 | 2.4 | 3.1 | 2.7 | B | 樹種の生育特性を踏まえた適性評価や樽構成部材の設計手法など実験計画を精査するとともに、食品の安全性と同等の評価を検討すること。北海道産ブランド力を活かす趣旨を踏まえ、道産酒を使用した風味試験等の方法を精査し、道民生活や道内産業へ幅広く波及される成果を目指すこと。 | B | 本課題は、道産木材の高付加価値利用と道産酒のブランド力向上を目指すものであり、これらが相俟って新たな観光資源が創出されることも展望できるなど、公設試として取り組む意義は大きい。研究評価委員会の意見も踏まえつつ、令和8年度から実施する。 |

令和7年度事前評価結果(重点研究)

| 研究 課題 名 (期 間) | 代表試験場 | 研究評価委員会による評価結果 | | | | | | 総合評価 | |
|---|--------------------|---------------------------------|-----------------------------|-------------------|--------------|---|--------|--|--------|
| | | 緊 急 性 ・ 必 要 性 | 研究計画の適切性 | | | 成 果 可 能 性 の 活 用 の | 評 価 | 意 見 | 評 価 |
| | 共同研究機関 (外部) | | 研究目標 および研 究項目の 妥当性 | 計画の科 学的妥当 性 | 実施体制 の妥当性 | | | | |
| 選果工程自動化システム開発効率化のための仮想環境・実環境協調開発基盤の構築(R8-R10) | | | | | | | | | |
| 立命館大学、 北海道大学 | 工業試験場 | 3.1 | 3.1 | 3.0 | 2.9 | 3.4 | B | 農産物の特性のバラツキやイレギュラー事象 およびハードウェア側の設計不良を正確に再現できるシミュレーション技術開発へ取り組み、基盤構築に注力した研究計画とすること。開発するデジタルツイン技術の汎用化を強く意識し、多様な作物や整列・位置合わせ以外の作業へ展開を見据えて研究開発を進めること。 | B |
| | | | | | | | | | |
| 酪農流域河川の水質保全に向けた流域管理技術の構築(R8-R10) | | | | | | | | | |
| エネルギー・環境・ 地質研究所 酪農試験場、 林業試験場 | エネルギー・環境・ 地質研究所 | 3.3 | 2.9 | 2.9 | 3.3 | 3.0 | B | 既存研究の知見を踏まえながら調査手法や研究計画を精査し、多様な流域管理方策の中での農地管理や緩衝林保全の位置づけを明確にして公共財たる河川への環境負荷の低減効果を明らかにすること。流域管理に参加する農家へのインセンティブや具体的な緩衝林帯の保全イメージなどを念頭に、実効性が高い方策を目指すこと。 | B |
| | 林業試験場 | | | | | | | | |